

TANBO

プロジェクト 田園の夢

NOW-農はアートだ! -共有される創造性のかたち-

現場展では、稲刈りを終えた田んぼで市民と制作した土器ダクトを野焼きし、それを使ってもみ殻燻炭焼きを行います。土壌に有効な燻炭焼きは、かつてはどこにでも見られる日本の風物詩でしたが、現在では原料になるもみ殻が大量に破棄されています。一方、フナノに使われる稲藁を原料にした紙漉きアースワークが11月2日(水)~11日(金)に公開されます。また、さぎ山記念館ではフナノ学校を併催します。11月12日(土)、13日(日)には現場展の全てのプログラムが揃います。(見学自由・事前申込不要)。隣接する新加田屋たんぼでは12日(土)にフナノ祭りが行われます。



土器ダクト・野焼きアースワーク

作家:安部大雅、長谷川千賀子、吉田富久一 + 市民参加

土器ダクト/野焼き焼成

10/14(金) 15(土) 16(日) 会場:加田屋たんぼ

もみ殻燻炭/野焼きアースワーク

11/12(土) 13(日) 会場:加田屋たんぼ



柳井嗣雄による 藁・紙漉きアースワーク

参加作家と有志が総力で取りかかる

- ①どろんこたんぼ隣地で公開制作 11/2(水)~4(金)
- ②加田屋たんぼで公開制作 11/2(水)~11(金)
- ③ゲルの壁として展示 11/12(土) 13(日)

ゲルの中での世界小屋会議

農はアート「創造的な思考の観点から」
吉川信雄、宮下貴史、多田 満 他、自由参加
11/12(土) 13(日) 日中&夕刻

磯 益子の気功パフォーマンス

11/12(土) 13(日) 日中&夕刻

煙に映す光のかたち

「パーティクルによる同時性のパターン~見えるもの
の見えないもの~」吉川信雄
11/12(土) 13(日) 夕刻

茶会“利休は縄文を知っていた?”

森山哲和(考古造形研究所) + 長谷川律子(茶道家)
11/12(土) 13(日) 11時~14時



社会芸術/ユニット・ウルス メンバー
吉田富久一(代表)、長谷川千賀子、吉川信雄、宮下貴史、
柳井嗣雄、安部大雅、多田 満、磯益子
協力/縄文茶会:森山哲和 + 長谷川律子

フナノ学校 会場:さぎ山記念館

10/29(土) 10:00~13:00 「食」の学習会・試食会「見沼地域の郷土食を知り、食べてみよう」

講師:松成容子(食育研究会MoguMogu 代表)

調理協力:萩原さとみ(ファーム・インさぎ山代表)

試食代500円(申込はFAXで 048-878-0459 ファーム・インさぎ山まで)

11/5(土) 14:00~16:00 「藁」の学習会「藁はお米の親だもの~藁の話~」

講師:宮崎 清(千葉大学名誉教授)資料代300円

11/6(日) 13:00~15:00 「環境カフェ」「生物の多様性レイチェル・カーソンから始まる環境意識」

多田 満(国立環境研究所主任研究員)参加費無料

定員:各30名 問合せ:メールで Funano@artplatform.jp まで



「温故知新」とは何かと考える

博物館に見る古代人の遺物は衣食住に密着したひらめきに溢れている。現代人が時間短縮を重視したばかりに置き去りにしてきた魅力が詰まっている。現代人である我々があえて時間をかけて古代人の手法を辿りその魅力を紐解くことで本当に新しい創造ができるかもしれない。多くの優れた発明はそうして抽出した過去のエッセンスから生まれたのではないか。「農とアート」=「温故知新」なのかもしれない。

安部大雅

「TANBOプロジェクト」藁紙制作

かつて、藁を原料とするわら半紙というものがあった。教育現場などで盛んに使われたが、高度経済成長の果て木材パルプを原料とするより高品質な洋紙に追いやられ忘れ去られていった。藁の文化は稲作とともに開花し、わらじや注連縄など日本人の暮らしを陰で支えてきた。文化は効率化や機能性では測れない、何か現実とは別の可能性を秘めているはずだ。

私はこの数年、飯能市の西川材(杉、檜)の樹皮から紙を作る活動をしている。林業という現実の営みの中から、あるいは廃棄される物の中から創造的なものを見いだすのはアートそのものだ。ここ見沼たんぼで再現される「フナノ」に感銘を受け、私たちは田圃の中で藁紙を作ることを試みようと思う。農とアートが連動していく何かが発見されることを期待して。

柳井嗣雄